

折り鶴を広島に（人権・平和教育）

関西医科大学附属病院分教室

1 はじめに

2025年は、第二次世界大戦終結から80年の節目である。一方、ウクライナ戦争など、21世紀も戦争は絶えず、平和教育は「記憶の継承」と「未来への責任」という意義を担っている。

平和教育と人権学習は、人権が尊重されることで平和が守られ、平和であることで人権が守られるという、相互依存の関係にある。戦争は、生命や財産を侵害する最大の人権侵害であり、戦争の悲惨さを学ぶことは、人権尊重の重要性を学ぶことに繋がると考えている。

今回の活動では、子どもたちが戦争で尊い命や大切なものを失った人の心の痛みや叫びを理解しようと努め、折り鶴を通して自分にできる行動とは何かを考えることを大切にしたい。そして戦争と平和について学び、学びを実践に生かす活動として、折り鶴を折る体験、病棟掲示板を通して他者にも呼びかける体験、広島の平和記念公園に送り届ける活動へと繋がった。

2 活動の流れ

(1) 戦争ってなに？

授業者の祖父が従軍した写真記録から戦争とは何かを知り、現代にも続く戦争の犠牲、世界中から広島の平和記念公園に平和を願う折り鶴が届くことを知る。

(2) 動物のいない動物園のお話。

絵本『かわいそうなぞう』の話モデルに、人類が行った戦争により、無関係な多くの動物園の動物が犠牲になったことについて学ぶ。

(3) 『佐々木禎子さんと折り鶴』

原爆の子の像モデルとなった少女について学ぶ。



従軍した写真



戦友の墓碑



動物慰霊碑



原爆の子の像

(4) 折り鶴作成

佐々木禎子さんの折り続けた折り鶴を、実際に折ってみる。



折り紙が得意な子から、折り鶴の折り方を教わる。



休日にも鶴を折り続ける子どもたち。

I 実践報告

(5) 病棟掲示板に、折り鶴コーナーを設置

他の入院患者や家族、病院職員等に平和の象徴である折り鶴づくりを呼びかける。病棟関係者からも 200 羽を超える折り鶴が集まった。



(6) 広島平和記念公園への郵送手続き

メッセージカードと折り鶴 627 羽を送る (宛名書きや、梱包、送料計算など)



3 まとめ

今回の活動で、子どもたちの様々な発言を引き出し、627 羽の鶴を広島に送ることができた。

(1) 戦争ってなに？

「戦友のお墓（遺骨）を日本に帰してあげたい。」「大阪にも空襲があったんだ。原爆（広島）の威力はすごい。」「ロシアやウクライナ、イランやイスラエルは、今も戦争している。」「（広島に届く）折り鶴が、1000 万羽はすごい。」

(2) 動物のいない動物園

「（殺処分の動物たちを見て）泣きそうになった。」「天王寺動物園でも、そんなことがあったのか。」「大切に育ててきた動物を、飼育員が処分するのはつらい。」「戦争さえなければ、（動物は）助かったかもしれない。」

(3) 佐々木禎子さんと折り鶴

「黒い雨が降るって怖すぎる。」「（願いは）届かなかったけど、1人で千羽以上の鶴を折るのはすごい。」「折り紙がなくて、薬の袋で折ったんだ。」「世界中に、（禎子さんの）折り鶴が届けられているんだね。」など。

平和とは「戦争がない」ことではなく、「安心して生きられること」である。だからこそ、差別や貧困、支配による苦しみがあってはならない。平和の実現は、「どうすれば周囲と仲良くできるだろう」「困っている人を助けたい」と考え、みんなが少しずつ行動す

I 実践報告

ることで生まれていく。挨拶をする、話し合う、困っている人に声をかける、違う考えを受け入れる、他人の痛みを理解しようと努める、自分にできることを考える、つらいときにどう乗り越えるかを考える。こうした一つひとつの行動が平和の種となる。その種を育てるのは、一人ひとりの心と行動であり、平和教育（人権学習）であると考えている。

今回の授業では、「戦争の傷跡」が人々に残す深い痛みや喪失を考えることから平和を理解し、折り鶴を通して自分にできる行動を考えることを大切にした。平和とは、与えられるものではなく、私たち一人ひとりのたゆまぬ努力によって築かれるものである。その第一歩として、折り鶴と共に、子どもたちの心と行動に平和の種をまいていきたい。